



環境活動レポート

発行：2006年 1月31日

インデックス

- 1．環境方針
- 2．事業者活動の概要
- 3．環境への負荷の低減目標とその実績
- 4．目標に対する計画と具体的な取組
- 5．環境活動の取組結果と評価
- 6．環境関連法規への違反



株式会社ニッシン

1. 環境方針



環境方針

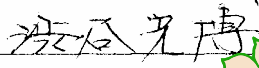


環境マネジメントシステムの継続的な推進と改善は、当社の優先事業活動の一つとして、次に示す活動を行います。

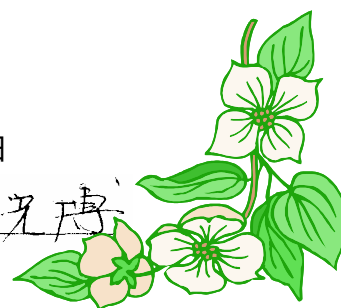
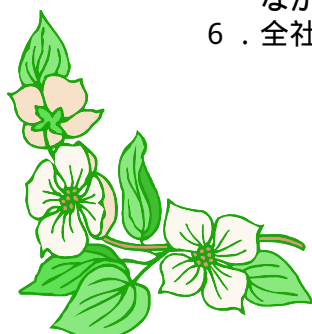
1. 関連法規、法令、規則、条例、協定及びその他合意事項を遵守する。
2. 汚染防止・省エネルギー・省資源活動に対して目的・目標を定め、継続的改善を実施する事により環境マネジメントシステムの向上を図る。
3. 廃棄物削減とリサイクルの推進。
4. 環境品質を保証する為に使用禁止物質の削減、又は撤廃の推進。
5. 環境マネジメント活動に、“品質管理”と“5S”活動をリンクさせながら本システムの効率的改善を図る。
6. 全社員がこの方針を理解し、行動する。

《この環境方針は社内外に公表します》

2005年 8月 1日

代表取締役 

株式会社ニッシン



2. 事業者活動の概要

【1】 事業者名及び代表者名

カブシキガイシャ ニッシン
株式会社ニッシン
シブヤ ミツヒロ
代表取締役社長 渋谷 光博

【2】 事業所住所

〒357-0047 埼玉県飯能市落合500-1

【3】 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者	環境管理責任者	馬路 文雄
担当者	環境管理事務局	梅澤 重隆
連絡先	電話番号	042-974-1161
	FAX 番号	042-974-1705
	E-mail	nisshin@maple.ocn.ne.jp
	H.P URL	http://www.nisshin-corp.com/

【4】 事業の内容

精密板金加工、塗装、組立（OA機器、医療用機器等の製造）

【5】 当社の5S活動及び環境保全活動の経緯

1996年 7月 体質改善5S活動スタート
2002年 3月 株式会社リコグリーン調達ガイドライン認証取得
2003年 5月 ソニー株式会社グリーンパートナー認証取得

【6】 事業の規模

創業 昭和44年 5月
売上高 5億7千万円
従業員数 54名

3. 環境への負荷低減の目的・目標とその実績

【1】 36期を基準とし、37期より新たに立てた3年間の目標。尚、上水及び廃シ
ンナーについては備考欄を参考。

NO.	環境負荷項目		単位	36期基準	37期計画	38期計画	39期計画	備考
1	資源投入	北 ^レ -用紙	枚	92,109	目標1%減 91,197	目標3%減 89,426	目標5%減 87,722	
2		マグネット ビット	本	400	目標1%減 396	目標3%減 388	目標5%減 380	
3		フイルメンテープ	巻	420	目標1%減 415	目標3%減 407	目標5%減 400	
4		使用禁止 物質	%	含有率 0%	含有率 0%	含有率 0%	含有率 0%	客先要求事項に対する実 績数値
5	投入資源	上水	m ³		基準期 3,026	目標1%減 2,996	目標2%減 2,966	上水は新規設備導入により 37期(3,026%)基準 から3%減の活動
6	炭二 酸化 化	電力 (Co ²)	kwh	481,578	目標1%減 476,809	目標5%減 467,551	目標5%減 458,645	Co2削減の為のテーマ
7	廃棄物 排出	廃棄物 (全体)	kg	2,930	目標1%減 2,900	目標3%減 2,844	目標5%減 2,790	
8		金属くず (スクラップ)	kg	167,963	目標1%減 166,300	目標3%減 163,070	目標5%減 159,964	
9		金属くず (異常発生 品)	kg	8,840	目標1%減 8,752	目標3%減 8,582	目標5%減 8,419	
10		粉じん	kg	300	目標1%減 297	目標3%減 291	目標5%減 285	
11		廃シナー	%	36期計画 目標1%減 2,967	目標2%減 2,938	目標3%減 2,909	継続又は新 テーマ検討	廃シナーは35期(2,997 %)基準から3%減の活 動

上記の表は36期(2003/8~2004/7) 37期(2004/8~2005/7) 38期(2005/8~2006/7)
39期(2006/8~2007/7)を表す。

【2】 37期、38期の目的・目標の実績は次の通りである。

NO.	環境負荷項目		I:投入 O:排出	単位	37期	38期	備考
1	資源投入	北 ^レ -用紙	I	枚	81,890 12.5%減	10,461 77%減	
2		マグネット ビット	I	本	400 0%	470 135%増	
3		フイルメンテープ	I	巻	270 35.7%減	240 14.3%増	
4		使用禁止 物質	I	%	0% 要求達成	0% 要求達成	
5	投入資源	上水	I	m ³	3,026	980 35.2%減	上水は新規設備導入により38期より 削減テーマとして掲げる。
6	炭二 酸化 化	電力 (Co ²)	I	kwh	477,137 0.9%減	230,013 4.5%減	Co2削減の為
7	廃棄物 排出	廃棄物 (全体)	O	kg	2,200 33.2%減	730 50.2%減	
8		金属くず (スクラップ)	O	kg	145,387 15.5%減	65,324 22.2%減	
9		金属くず (異常発生 品)	O	kg	7,236 15.5%減	650 42.9%減	
10		粉じん	O	kg	169 43.7%減	119 20.7%減	
11		廃シナー	O	%	1,600 46.6%減	600 60%減	

上記の表は37期(2004/8~2005/7) 38期(2005/8~2005/12)を表す。

目標値、実績値は基準期をベースとして計算しております。

38期については現在実施中であり、中間の実績を掲載。

4. 目標に対する計画と具体的な取組

【1】 目的・目標を達成させる為の環境マネジメントプログラム(計画)は以下の通りである。

環境マネジメントプログラム(全社)

1 目的の達成期日は2007年7月末
2 基準年度は2003年度

NO	環境負荷項目	目的	目標、行動内容	2006年7月末				2006年7月末	2007年7月末	手順書	担当部門	推進部門
				I	II	III	IV					
1	電力(Co2)	使用量を基準年度比5%削減	1 照明器具等の見直しと試行と実施 2 現状把握しての蛍光灯の撤去 3 現状把握しての蛍光灯の撤去	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	電力削減手順書(全社)	全部門	全部門	
2	廃棄物(全体)	排出量を基準年度比5%削減	1 廃紙・用紙の再利用の徹底 2 購入品等の廃棄物の再利用化 3 廃棄物運搬頻度の削減	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	廃棄物削減手順書(事務所、全部門)	全部門	全部門	
3	コピー用紙	使用量を基準年度比5%削減	1 コピー用紙の使用頻度の削減 2 不要コピーの見直しと試行と実施 3 ペーパーレスへの移行検討と試行	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	コピー用紙削減手順書	事務所G	事務所G	
4	金属くず(異常発生品)	使用量を基準年度比5%削減	1 異常発生品の低減化 2 異常発生品防止対策の実施 3 スキップに対する見直しと試行と実施	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	異常発生品削減手順書	NCTGベンダーG 第二加工課塗装G	第一加工課ベンダーG	
5	金属くず(スクラップ)	使用量を基準年度比5%削減	1 スクラップと抜きの見直し 2 端材在庫の徹底管理 3 材料購入の見直しと試行と実施	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	スクラップ削減手順書	第一加工課NCTG	第一加工課NCTG	
6	粉じん	排出量を基準年度比5%削減	1 排出量低減化 2 作業方法の改善 3 作業上の見直しと試行と実施	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	粉じん削減手順書	第二加工課	第二加工課	
7	マグネットビット	使用量を基準年度比5%削減	1 使用量低減化 2 作業方法の改善 3 使用頻度の見直しと試行と実施	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	マグネットビット削減手順書	第三加工課組立G	第三加工課組立G	
8	フイルムテープ	使用量を基準年度比5%削減	1 使用量低減化 2 作業方法の改善 3 使用頻度の見直しと試行と実施	目標値	0.3%	0.7%	3%	5%	フイルムテープ削減手順書	第三加工課組立G	第三加工課組立G	

1 目的の達成期日は2006年度7月末
2 基準年度は2002年度

NO	環境負荷項目	目的	目標、行動内容	2004年7月末				2005年7月末	2006年7月末	手順書	担当部門	推進部門
				I	II	III	IV					
9	廃シナー(第一・第二石油類)	排出量を基準年度比3%削減	1 シナー洗浄方法・再利用 2 再利用の徹底 3 使用量の低減化	目標値	0.3%	0.7%	2%	3%	有機溶剤削減手順書	第三加工課塗装G	第三加工課塗装G	

1 目的の達成期日は2008年度7月末
2 基準年度は2004年度

NO	環境負荷項目	目的	目標、行動内容	2006年7月末				2007年7月末	2008年7月末	手順書	担当部門	推進部門
				I	II	III	IV					
10	上水使用の削減	使用量を基準年度比3%削減	1 水道、蛇口、トイレの節水 2 上水のリサイクルの推進 3 使用メモリ対策の推進	目標値	0.3%	0.7%	2%	3%	上水削減手順書	全社	事務所G	

→ 実施執行
- - - - - 維持

【2】 上記計画書を基に以下の通り取組を行う。

電力(Co2)の削減 : 社内全体の照明等の使用は必要最低限の範囲とし、使用していない機械等のコンセントは差しっぱなししないようにする。又、必要ない照明については蛍光灯の撤去を行う。

全体の廃棄物の削減 : コピー用紙の再利用徹底及びリサイクル化への推進を行う。

コピー用紙の削減 : 必要最低限のコピー及びペーパーレスへの推進を行う。

金属くず(スクラップ) : 端材在庫管理として、低減の為に歩留率アップを行う。

金属くず(異常発生品) : 異常発生品防止の為に作業性、スキルアップ向上を行う。

粉塵の削減 : 粉塵をおさえる為に作業方法の改善及び工数削減を行う。

マグネットビットの削減 : マグネットビット破損を避ける為に扱い上のスキルアップを行う。

フイルムテープの削減 : テープの長さ和使用される製品の貼り場所の検討をし実施する。

廃シナーの削減 : 購入する量を低減し出来る限りリサイクル化を行う。

使用禁止物質の削減 : 客先要求事項により使用禁止物質使用をしない。

上水の削減 : 水道等の利用は必要以上に利用しないで蛇口、トイレに節水装置等を設けるようにし、削減を行う。

【3】 毎週月曜日に環境・品質/5S活動を行っており、その活動内の内容は環境目的・目標に対する取組と教育訓練及び事故及び緊急事態対応の訓練等の実施、品質についての話し合い及びスキルアップの勉強会、5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)活動を行っている。

5. 環境活動の取組結果と評価

【1】 37期、38期の評価は以下の通りである。

NO.	環境負荷項目	36期基準	37期目標	37期実績	37期評価	38期目標	38期実績	38期評価	備考
1	資源投入	紙-用紙	92,109	目標1%減 91,197	12.5%減 81,890		目標3%減 89,426	77%減 10,461	
2		マグネットビット	400	目標1%減 396	0% 400		目標3%減 388	135%増 470	
3		フィラメンテープ	420	目標1%減 415	35.7%減 270		目標3%減 407	14.3%増 240	
4		使用禁止物質	含有率 0%	含有率 0%	要求達成 0%		含有率 0%	要求達成 0%	
5	投入資源	上水		基準期 3,026		目標1%減 2,996	35.2%減 980		新規設備導入により37期を基準
6	炭素酸化	電力 (Co ²)	481,578	目標1%減 476,809	0.9%減 477,137		目標5%減 467,551	4.5%減 230,013	Co2削減の為にテーマ
7	廃棄物排出	廃棄物 (全体)	2,930	目標1%減 2,900	33.2%減 2,200		目標3%減 2,844	50.2%減 730	
8		金属くず (スクラップ)	167,963	目標1%減 166,300	15.5%減 145,387		目標3%減 163,070	22.2%減 65,324	
9		金属くず (異常発生品)	8,840	目標1%減 8,752	15.5%減 7,236		目標3%減 8,582	42.9%減 2,523	
10		粉じん	300	目標1%減 297	43.7%減 169		目標3%減 291	20.7%減 119	
11		廃シナー	36期目標 1%減2,967 実績2000 33.3%減	目標2%減 2,938	46.6%減 1,600		目標3%減 2,909	60%減 600	

上記の表は37期 (2004/8~2005/7) 38期 (2005/8~2006/7) を表す。

目標値、実績値は基準期をベースとして計算しております。

38期については現在実施中であり、実績内容は5ヶ月分 (2005/8~2005/12) の集計で掲載。

評価は次の通り。 : 削減されている : 理由により削減されている : 削減されていない

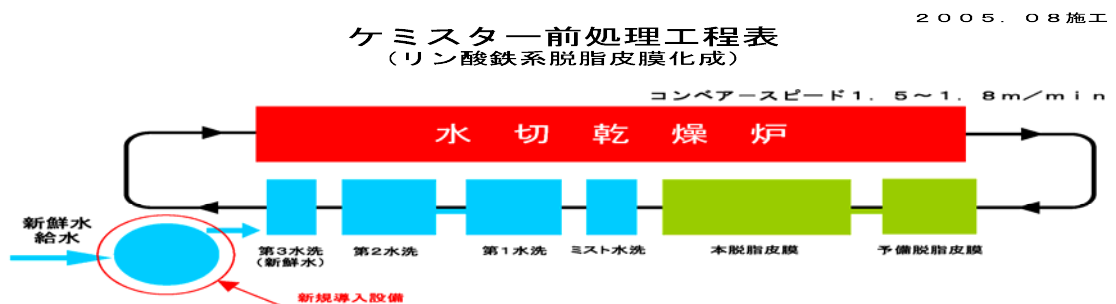
【2】 考察

今回のE A 2 1の活動の前に環境マネジメント活動を行っており、従業員の意識かつ環境への取組意識もレベルが上がった。ただし、目標を達成出来ていないテーマもあり、今後削減案の改訂を行いつつ38期末に向けて目標達成のための活動を行っていく。1.コピー用紙、4.使用禁止物質、5.上水、6.電力 (Co₂)、7.廃棄物 (全体)、8.金属くず (スクラップ)、9.金属くず (異常発生品)、10.粉塵、11.廃シナーに関しては削減がされているが2.マグネットビット及び3.フィラメンテープについては削減がされていない。削減されなかった理由はマグネットビットに関しては取り扱い上の注意不足が原因でありフィラメンテープは新規製品が増え使用頻度が上がってしまったのが原因である。

その他効果的に大きかったテーマについては以下の【3】の通りである。

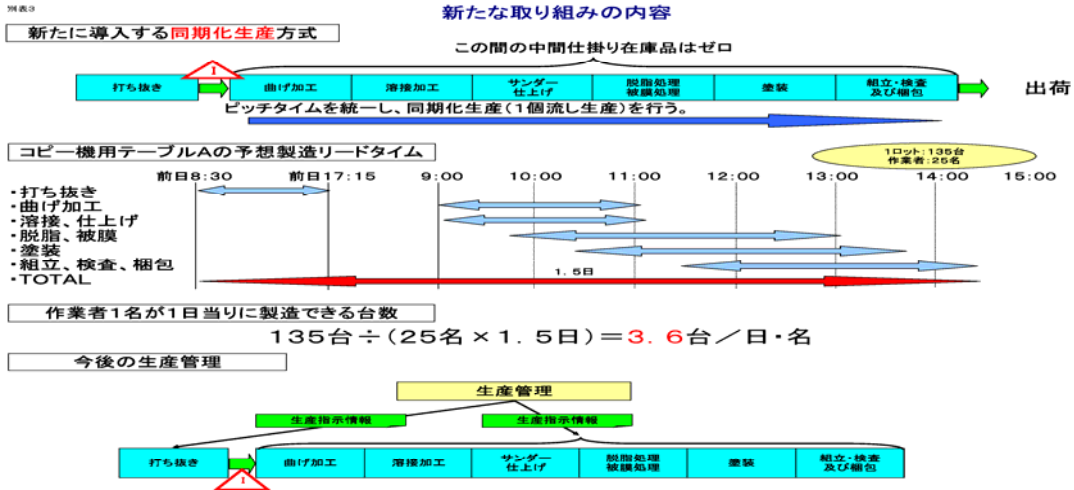
【3】 改善及び主な活動の成果

水資源削減の効果：今まで前処理設備の水道を出しっぱなしにしていたのですが、設備導入及び給水装置を設置した事により月平均150m³削減が可能になった。



株式会社ニッシン

生産効率のアップ：今までは押し込み生産方式により生産を行ってききましたが同期化生産方式への改善を行い、その結果以下の図のように3.21台/日・名から3.6台/日・名（12%生産効率アップ）へ達成する事が出来た。



コロコンを利用したの次工程への流れの改善 改善前



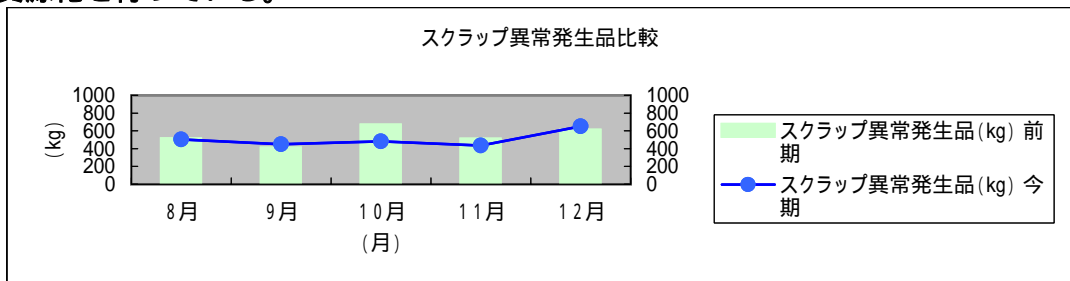
改善後



廃シナ-リサイクルの効果：リサイクル可能な廃シナ-を塗装製品に使用し年間購入量が約13%削減され、特別産業廃棄物への排出量も約60%削減が可能となった。投入減、排出減が出来ました。

主な活動の成果

ア 異常発生品（不具合品）金属くずの発生に対してスキルアップを行い、その結果目標に対して41%削減された。但し以下のグラフは前期との比較として比べており削減は7%削減となっている。又、金属くずに関してはリサイクルへ回し再資源化を行っている。



イ 事業の改善では電力消費を抑える為のスイッチ型から紐付き型へ変更、廃棄物に関しては徹底分別及びリサイクルへの移行の徹底、資源に関してはエコマ-ーク使用の物を購入かつ使用低減化等の活動と、事業活動への意識、作業のスキルアップ、事故及び緊急事態等の様々な教育・訓練行っており従業員の意識も高まっている。また、客先要求事項に対しても速やかに対応し、使用禁止物質に関する管理については優先的に行っている。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

【1】 下記の通り自ら遵守状況をチェックし問題点がない事を確認しています。

環境関連法規項目		遵守結果	
法規制違反の有無	公害に関する法律	下水道法	2006年1月現在無し
		騒音規制法	2006年1月現在無し
		振動規制法	2006年1月現在無し
		悪臭防止法	2006年1月現在無し
	廃棄物・リサイクルに関する法律	循環型社会形成推進基本法	2006年1月現在無し
		廃棄物の処理及び清掃に関する法律	2006年1月現在無し
		再生資源の利用の促進に関する法律	2006年1月現在無し
		使用済自動車の再資源化等に関する法律	2006年1月現在無し
	化学物質に関する法律	毒物及び劇物取締法	2006年1月現在無し
		消防法	2006年1月現在無し
		高圧ガス保安法	2006年1月現在無し
	その他の法律	労働安全衛生法	2006年1月現在無し
		粉塵障害防止規則	2006年1月現在無し
	条例	埼玉県環境保全条例	2006年1月現在無し
		飯能市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	2006年1月現在無し
		飯能市下水道条例	2006年1月現在無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2006年1月現在無し	

【2】 外部からの苦情、関連当局からの違反の指摘もありません。